
第1回栃木県リハビリテーション学術大会での講演活動報告



2026年1月25日、自治医科大学地域医療情報研修センターにて開催された第1回栃木県リハビリテーション学術大会において、当院リハビリテーションセンターの理学療法士・海津陽一が教育講演を行いました。本学術大会は、栃木県の理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の3職種が合同で開催する初の取り組みであり、地域医療とリハビリテーションの連携を深めることを目的とした大規模な学会です。

講演テーマ

「ChatGPT を臨床に活用する方法」

本講演では、近年注目を集めている生成 AI（文章や情報を自動で作成する人工知能）である ChatGPT を、医療現場でどのように安全かつ効果的に活用できるかについて解説しました。具体的には、リハビリテーションの記録作成の補助、情報整理、学習支援など、日常業務の負担軽減につながる活用例を紹介しながら、AI を「サポートツール」として使う

重要性を伝えました。

また、誤った情報が出力される可能性への注意点や、医療現場で使用する際に守るべきルールについても分かりやすく説明し、安全性を重視した活用方法を共有しました。

講演の意義と今後に向けて

会場では多くの参加者が熱心に耳を傾け、医療とAIの新しい関係について活発な意見交換が行われました。今回の講演を通して、デジタル技術を上手に取り入れることで、医療従事者がより患者さんに向き合う時間を確保できる可能性が示されました。

当院では今後も、新しい技術や知識を積極的に学び、より質の高いリハビリテーション医療の提供につなげてまいります。

